愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	幼児と音楽表現		
担当者(Instructors)	水野 伸子	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

領域「表現（音楽）」に関し、幼児の表現や発達段階及び表現を促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な音楽表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識や技能、表現力およびその指導法を身に付ける。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	演習、および実技形式で行うが、音楽表現活動ではディスカッションやグループワー ク、アクティブ・ラーニングを取り入れる。原則は対面で行い、3回程度リモートを取り入れる。提出された課題はコメントをつけて返し、次の授業で全体交流する。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	領域「表現」と音楽表現	領域「表現」における幼児の音楽表現のについて考える。その際、表現の生成過程について学び、グループディスカッションを通して幼児の表現の捉え方を深める。	□
第2回	幼児の音楽的発達のみちすじ	音への興味からわかる3～5歳児の音楽的な発達のみちすじを、その音楽的経験を支える 周りの人間関係との視点から捉える。	□
第3回	領域「表現」のねらい及び内容の理解	保育所・幼稚園・認定子ども園における音楽的表現活動の実践例から領域「表現」のねらい及び内容の位置づけについて理解する。	□
第4回	伴奏法１：CとG7のコードを用いた伴奏譜の作成と実践	音名・コードネームの基本を理解し、子どもの歌にCとG7のコードを用いた伴奏を弾き、楽譜の作成及び演奏技術を習得する。	■
第5回	乳幼児の生活を支えるリズム	0～5歳児がリズムをきっかけとしてさまざまな能力を身につけていく様子を実際の子どもの姿から理解し、リズムと乳幼児の発達との関連を理解し環境設定を考える。	□
第6回	日本人の音感覚	日本人の音感覚を歴史的視点から眺め、生活の中に取り入れた音を実際に聴き、人間と音楽や生活と音楽との関係から音楽観をグループワークを通して意見交流し問い直す。	□
第7回	音楽的文化化とわらべうた	子どもの成長・発達を踏まえて、日本語との関係、西洋との比較からわらべうたを捉える。絵描き歌、伝承遊びを体験する。音楽教材として、これらの遊びの面白さがどこにあるのか音楽的要因を探り発展させる。	□
第8回	伴奏法2：ⅠとV7のコードを用いた移調の理解	子どもの歌の伴奏をⅠとV7のコードを用いてハ長調から他の調へと移調させ、子どもの声の高さに合わせた伴奏を作ることができることをグループワークを通して実践的に理解する。	□
第9回	伴奏法3：ヘ長調・ト長調・ニ長調の移調楽譜の作成と実践	子どもの歌の伴奏をヘ長調・ト長調・ニ長調へ移調させた楽譜の作成と演奏を通して、子どもの声の高さに合わせた伴奏を実践的に理解しその技術を習得する。	■
第10回	子どもの発達を促す身近なものを用いた音楽活動	子どもの発達に則したボディパーカッションや生活で使うものや廃材など身近な物を用いた音楽活動の仕組み方や音楽作りの方法を実践的に学ぶ。	□
第11回	多様な幼児の実態に合わせた療法的な音楽活動の理解	発達の個人差、障がいの有無等により多様な子どもの実態に寄り添った療法的音楽活動の考え方を理解し、その方法をグループワークを通して実践的に学ぶ。	□
第12回	伴奏法４：主要3和音を用いた伴奏と移調の理解	I、IV、V7の主要三和音を用いて子どものうたの伴奏ができることを理解し、その移調の方法をグループワークを通して実践的に学ぶ。	□

第13回	伴奏法5：歌の雰囲気を生かしたリズムアレンジの方法	和声に基づいて作成した伴奏を歌の雰囲気に合わせてリズムをアレンジすることで効果的な表現になることを実践的に学び、ハ長調・ヘ長調・ト長調・ニ長調の楽譜の作成と演奏技術を習得する。	■
第14回	音楽活動を取り入れた保育の構想（アクティブ・ラーニング）	音楽活動を取り入れた保育を多面的な方向からグループで議論しながら作りあげ、指導案・教具等を作成し発表の準備をする。	□
第15回	模擬保育と領域「表現（音楽）」の意義と課題	前時に準備した模擬保育をグループごとに実践し、領域「表現（音楽）」の意義と課題を考察する。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

・事前学習:次の授業で学ぶ関連テキストの章を読み、わからない音楽用語や疑問に思う内容を明確にする(2時間程度)。 ・事後学習:授業でわかったことや疑問に思うことなどをノートに整理するとともに、課題に取り組む(2時間程度)。。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

提出された課題は添削して返す。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	幼児の発達段階から音楽表現をする姿を具体的にイメージでき、それを支える支援方法を音楽的な観点から説明することができる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	幼児の感性や創造性を豊かにする表現遊びの工夫や音楽環境の提案をすることができ、表情豊かに実践することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			50%	50%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

その他：授業内確認テスト及び実技課題

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	石井玲子編著「実践しながら学ぶ子どもの音楽表現」保育出版社	9784938795788
2	コクヨ　音楽帳B5 5線譜12段	
3	「「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示，文部科学省）	
4	「保育所保育指針解説」（厚生労働省）	
5	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年3月告示，内閣府・文部科学省・厚生労働省）	

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	横井志保・奥美佐子編著：新・保育実践を支える「表現」福村出版	9784571116162
2	石井玲子編著：表現者を育てるための保育内容「音楽表現」ー音遊びから音楽表現へー　教育情報出版	
3		
4		
5		